

Interstage Navigator Server V9 移行上の注意事項

第3版 2017年2月24日

富士通株式会社

1. 概要

Interstage Navigator Server V9に移行する場合の下記環境に関する注意事項について説明します。

- Symfoware Navigator 利用環境の移行上の注意
- Navigator サーバの移行上の注意
- Navigator クライアントの移行上の注意
- Web コンポーネントの移行上の注意
- マニュアル名称の変更

2. 本情報の対象となる環境

本情報の対象製品	Interstage Navigator Server Enterprise Edition V9 Interstage Navigator Server Standard Edition V9
本情報の対象 OS	Windows Server Red Hat Enterprise Linux Oracle Solaris

3. Symfoware Navigator 利用環境の移行上の注意事項

Interstage Navigator ServerV9 では、Symfoware Navigator 製品で作成した資産を継承できます。

- Navigator サーバで作成した資産
Symfoware Navigator 製品の Navigator サーバで作成したユーザ定義ファイルや辞書を使用できます。

Symfoware Navigator 製品で作成した資産を継承するには、Navigator サーバのインストール時に以下のようにします。

- (1) Symfoware Navigator 製品の Navigator サーバがインストールされていたフォルダにインストールする。
- (2) インストール時に設定する辞書フォルダを Symfoware Navigator 製品の辞書フォルダと同じにする。

- **Navigator クライアントで作成した資産**
Symfoware Navigator 製品の Navigator クライアントで作成した問合せファイルなどの資産は、そのまま使用できます。
- **Navigator API を利用したアプリケーション資産**
Symfoware Navigator 製品の Navigator クライアントで作成した資産を利用して、Symfoware Navigator 製品の Navigator API で作成したアプリケーションをそのまま利用可能です。

4. Navigator サーバの移行上の注意事項

4.1 .rn_showuser コマンドで表示される結果形式の変更について

rn_showuser コマンドで表示される結果形式のうち、「ip-address」に表示される 15 文字から、39 文字に変更されています。

従来の範囲で表示する場合は、rn_showuser コマンド利用時に、パラメタ「-p」を追加してください。ただし、パラメタ「-p」を指定時に、クライアントが、IPv6 ネットワーク環境の場合には、IP アドレスの表示が切れます。

4.2 Shift-JIS 使用時の設定値の変更について (Linux 版のみ)

Linux 版で、Navigator サーバのコード系に Shift-JIS を使用する場合は環境変数(「LANG」、「LC_ALL」)の設定値が変更されています。

旧版の環境から移行する場合は、以下のとおり環境設定ファイルを変更してください。

変更前	LANG=ja_JP.SJIS または LANG=ja_JP.WINDOWS-31J LC_ALL=ja_JP.SJIS または LC_ALL=ja_JP.WINDOWS-31J
変更後	RHEL7 以降の場合 LANG=C LC_ALL=C RHEL6 以前の場合 LANG=C または LANG=ja_JP.WINDOWS-31J LC_ALL=C または LC_ALL=ja_JP.WINDOWS-31J

※ コマンド実行用のバッチなどに該当の環境変数を設定している場合は、すべて上記のとおり変更してください。

4.3. Interstage Shunsaku Data Manager 利用環境の移行上の注意事項

Interstage Navigator Server V8 以前で Interstage Shunsaku Data Manager を利用していた環境を移行する場合の注意事項・非互換内容を説明します。

本情報は、Interstage Navigator Server Enterprise Edition 向けです。

4.3.1. バージョンアップ時の注意事項

V8 以前に作成した XML メタ定義ファイルは、バージョンアップ後 XML メタ定義ファイルの登録コマンド(rn_setxmlmetafile)により、再度登録する必要があります。

再度登録せずに利用した場合、Navigator クライアントから Navigator サーバに接続すると「KVR71360 XML 辞書ファイル形式が古いため、Navigator Server で利用できません。」のエラーが表示されます。

なお、Navigator ツールを使用した辞書の更新作業は不要です。

XML メタ定義ファイルの登録コマンドで XML メタ定義ファイルを登録するコマンドの使用例を以下に示します。

XML 辞書ファイルの格納先が C:¥NAVI¥METADIR で、XML メタ定義ファイルの絶対パスが C:¥temp¥metafile.xml の場合、以下のように実行します。

```
set RN_SHUNSAKU_META_DIR=C:¥NAVI¥METADIR
rn_setxmlmetafile C:¥temp¥metafile.xml
```

XML メタ定義ファイルの登録コマンドの詳細は、コマンドリファレンスを参照してください。

4.3.2. 動作上の非互換

(1) 文字項目のデフォルトの集計方法の変更

文字型のデータ項目をデータ欄に置いた場合の集計方法の初期値を、利用頻度の少ない「最大」から「件数(すべて)」に変更しました。

(2) アクセスログの強化

アクセスログを利用していた場合、Interstage Navigator Server V8 までは、Interstage Shunsaku Data Manager 利用時の情報はアクセスログに出力されませんでした。V9 以降 Interstage Shunsaku Data Manager 利用時の情報がアクセスログに出力されません。

アクセスログを解析するアプリケーションがある場合には、Interstage Shunsaku Data Manager 利用時の情報がアクセスログに出力されることで動作に影響がないか確認する必要があります。

アクセスログの詳細は、セットアップガイド Vol.1 の「データベースの管理を強化した運用」および「ログファイルリファレンス」を参照してください。

4.3.3. 表示・操作上の非互換

(1) Navigator Windows クライアントの操作変更

従来必要だった Interstage Shunsaku Data Manager のデータソースへの接続操作は不要となります。

(2) Websight の設定方法の変更

従来必要だった Interstage Shunsaku Data Manager のデータソースに対する、コネクションブックの設定は不要となります。

これにより、データソース設定 GUI は表示されなくなります。

(3) Navigator Windows クライアントの表示変更

Navigator Windows クライアントで Interstage Shunsaku Data Manager を利用する場合の Interstage Shunsaku Data Manager 関連の表示が変更となります。

データソース種別

Interstage Shunsaku Data Manager のデータソースの種別は、V9.0～V9.3 では「Other」と表示されます。V9.4以降では「Shunsaku」と表示されます。

(4) Navigator 辞書管理ツールの表示変更

Navigator 辞書管理ツールで Interstage Shunsaku Data Manager を利用する場合の Interstage Shunsaku Data Manager 関連の表示が変更となります。

「データソースの追加」および「データソース情報の変更」ダイアログ

Interstage Shunsaku Data Manager のデータソースのタブは、V9.0～V9.3 では「Other」と表示されます。V9.4以降では、「Shunsaku」と表示されます。

データソース種別

Interstage Shunsaku Data Manager のデータソースの種別は、V9.0～V9.3 では「Other」と表示されます。V9.4以降では、「Shunsaku」と表示されます。

(5) メッセージ

Interstage Shunsaku Data Manager 利用時にクライアントに表示されるメッセージが変更となります。

変更されるメッセージは以下のとおりです。

(各表の上が旧メッセージ、下が新メッセージです。)

No.1

旧	Shunsaku のデータを問い合わせる場合、条件式に NOT を含めることができません。 条件式から NOT を削除してください。
新	条件式に NOT を含めることができません。 条件式から NOT を削除してください。

No.2

旧	Shunsaku のデータを問い合わせる場合、全ての期間を対象とした問い合わせは実行できません。 時間型管理ポイントで期間の設定を行ってください。
新	全ての期間を対象とした問い合わせは実行できません。 時間型管理ポイントで期間の設定を行ってください。

No.3

旧	Shunsaku のデータに集計方法「件数(すべて)」を指定する場合、あわせて以下の指定が必要です。表頭または表側に管理ポイントを指定する。 または、[データ]フィールドに件数(すべて) または「項目間演算」以外の集計方法のデータ項目を指定する。
新	集計方法「件数(すべて)」を指定する場合、あわせて以下の指定が必要です。表頭または表側に管理ポイントを指定する。または、[データ]フィールドに「件数(すべて) または「項目間演算」以外の集計方法のデータ項目を指定する。

No.4

旧	Shunsaku の接続に失敗しました。
新	Navigator サーバに接続できませんでした。[KVR で始まるメッセージ]

No.5

旧	Shunsaku のデータを問い合わせる場合、条件の無効化設定を使用することができません。 条件の無効化設定を解除してください。
新	条件の無効化設定を使用することができません。 条件の無効化設定を解除してください。

5. Navigator クライアントの移行上の注意事項

5.1. 管理ポイント一覧の絞り込みの表示の変更について

Navigator クライアントで、「データ項目に合わせて絞り込む」チェックボックスをチェックしている場合に、指定したデータ項目に合わせて、絞り込まれる管理ポイント一覧の表示が、Interstage Navigator Server V9.0 以前から変更されています。

従来では、データ項目をデータフィールドに貼り付けた時に、関係する管理ポイントが一覧で表示されました。Interstage Navigator Server V9.1 以降では、階層構造を維持したまま、関係のない管理ポイントだけ非表示になります。

Interstage Navigator Server V9.0 以前の形式に戻す場合は、Navigator の環境設定ファイルに、環境変数「RN_CONTROL_POINT_LAYOUT_MODE=1」を指定してください。

5.2. メッセージ抑止機能の変更について

Navigator Windows クライアントで、設定できるメッセージ抑止機能について、設定項目の名称が変更されています。

Interstage Navigator Server V9.0 以前では、[少なくする]で表示されていた項目は、Interstage Navigator Server V9.1 以降では、[問い合わせ作成時に抑止する]に変更されています。また、同様に、[OA アプリから利用時に抑制する]は、[アプリから利用時に抑止する]に変更されています。それぞれ、抑止されるメッセージの内容については、変更ありません。

また、Interstage Navigator Server V9.1 以降では、[スクリプティングの一括実行時に抑止する]を追加しており、初期設定で「ON」になっています。スクリプティングの一括実行、または部分実行を行う場合、各定義ファイルの実行時に表示されていた確認メッセージは表示されません。

従来（Interstage Navigator Server V9.0 以前）と同様に確認メッセージを表示させる場合は、Navigator Windows クライアントの[ツール]メニュー-[オプション]-[画面]タブ-[スクリプティングの一括実行時に抑止する]オプションの設定を「OFF」にしてください。

5.3. マスタ型管理ポイントのラベル項目を誤って指定した場合の動作の変更について

V9.1 以前と V9.2 で、マスタ型管理ポイントを作成、または修正する際、ラベル項目に指定する項目に定量制限値（定義長が 80 バイトまで）を超える項目を誤って指定した場合の動作を変更しています。

変更前	Windows クライアントまたは辞書ユーティリティコマンドで管理ポイントの作成または修正をすると正常終了し、その後、該当の管理ポイントを使用した問合せを実行すると以下のエラーになる場合があります。 「KVR17254U サーバとの接続が強制的に終了されました (ECONNRESET).」
変更後	Windows クライアントまたは辞書ユーティリティコマンドで管理ポイントの作成または修正をすると以下のエラーメッセージを出力します。 「KVR52512E 管理ポイントに使用する項目には 80 バイトを超える項目は指定できません。」

6. Web コンポーネントの移行上の注意

6.1. Web クライアントからの問い合わせファイルの保存場所の変更について

V9.1 以降でレポート共有機能を追加したため、Web クライアントからの問い合わせファイルの保存は、初期設定で、Web 上に保存するように変更しています。(Web クライアントの PC 上には保存されません。)

問い合わせファイルを、従来どおり Web クライアントを操作している PC 上に保存する場合は、「purewebconfig.properties」ファイルの設定を以下のように変更してください。

変更前	rnefile_download=OFF
変更後	rnefile_download=ON

6.2. 管理ポイント一覧の絞り込みの表示の変更について

指定したデータ項目に合わせて、絞り込まれる管理ポイント一覧の表示が、Interstage Navigator Server V9.0 以前から、変更されています。

従来では、データ項目をデータフィールドに貼り付けた時に、そのデータ項目に関する管理ポイントが一覧で表示されました。Interstage Navigator Server V9.1 以降では、階層構造を維持したまま、関係のない管理ポイントだけ非表示になります。

Interstage Navigator Server V9.0 以前の形式に戻す場合は、Navigator Server の環境設定ファイルに、環境変数「RN_CONTROL_POINT_LAYOUT_MODE=1」を指定してください。

7. マニュアル名称の変更

以下のマニュアル名称が変更されています。

V9.0 以前のマニュアル名称	V9.1 以降のマニュアル名称
Navigator Server セットアップガイド	Navigator Server セットアップガイド Vol.1 Navigator Server セットアップガイド Vol.2
Navigator Server 管理者ガイド	Navigator Server 管理者ガイド (辞書管理ツール編)

8. 略語表記について

本書では、以下の製品を「Windows Server」と略記します。

- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard Edition
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise Edition
- Microsoft® Windows Server® 2003, Standard x64 Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard Edition
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise Edition
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008, Standard 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008, Enterprise 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008, Datacenter 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V (64-bit) 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Standard 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Enterprise 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Datacenter 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2, Foundation 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012, Standard 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012, Datacenter 日本語版

- Microsoft® Windows Server® 2012, Foundation 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Standard 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Datacenter 日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2, Foundation 日本語版

9. 商標について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国、およびその他の国における登録商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国、およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat、RPM および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

—以上—